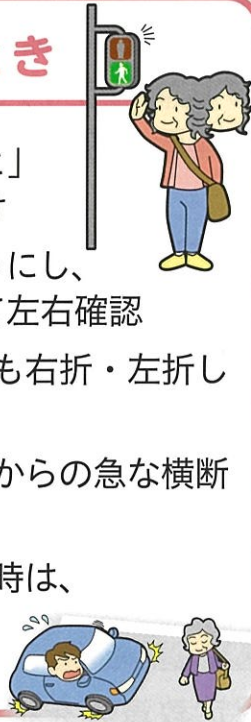


高齢者の皆さんへ

～家族みんなで声を掛け合い、高齢者の外出に配慮しましょう～

道路を歩くとき

- 「無理な横断事故のもと」「急がば回れ」の心掛け
- 横断歩道を利用するようにし、渡る際は、一旦止まって左右確認
- 交差点では、青信号でも右折・左折してくる車に注意
- 止まっている車の前後からの急な横断は、絶対にしない
- 手押し車や杖など使用時は、顔を上げて周りに注意



自転車に乗るとき

- 1 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認



- 5 ヘルメットを着用



夜間は自分の存在をアピールしましょう

夜間、車のライト点灯により、歩行者や自転車からは車がよく見えますが、車の運転者からは歩行者等が見えにくいものです。車から歩行者が見える距離は、着ている衣服の色によって違います。

白色等の明るい色の衣服や反射材・LEDライトを身に付け、事故に遭わないようにしましょう。

ドライバーが確認できる距離

黒っぽい服

白色等見えやすい色

反射材用品



26m



38m



57m以上

高齢ドライバーの 皆さんへお願い



体調が悪い時は運転を控えましょう。

運転中に意識を失うなどして、事故を起こす高齢ドライバーが少なくありません。また、服用した薬の影響などにより、安全運転に必要な心身機能が大きく低下する危険もあります。

車に乗ったら、シートベルトを着用しましょう。

助手席、後部座席の同乗者もシートベルトを着用しなければなりません。



「高齢運転者マーク」を付けましょう。

満70歳以上のドライバーは、「高齢運転者マーク」を車の前後面に付けましょう。



高齢運転者マーク

運転能力を確認しましょう。

安全に運転するために、運転適性診断や認定教育等を積極的に受けるなどして、自分の運転能力を確認しておきましょう。



あなたはどうですか？

～交通事故につながりやすい高齢者の行動特性～



自宅周辺での「油断」

「家が近いから」、「慣れた道だから」という油断が、事故につながります。

判断力の低下

道路を渡るタイミングが遅れ、事故につながる危険性があります。

視機能の低下

加齢により「動体視力」や遠近を判断する「深視力」の低下や、視野が狭くなることで、車の存在に気付かないことがあります。

筋力の低下

前傾姿勢になり、うつむいて周りが見えなくなったり、移動のスピードが遅くなって、道路を渡り終えるまでに時間がかかったりします。

サポカーS^{*}について

宮城県及び宮城県警察では、高齢運転者等による交通事故対策の一環として、自動ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置などの先進安全技術を備えた車「安全運転サポート車」(サポカーS)の普及啓発に取り組んでいます。

※サポカーSとはセーフティ・サポートカーSの略称です。

